

第 10 期中野区健康福祉審議会 スポーツ・健康づくり部会（第 7 回）

開催日 令和 6 年 11 月 5 日（火）午後 6 時 55 分～7 時 45 分

開催場所 中野区役所 702 会議室（7 階）

出席者

1. スポーツ・健康づくり部会委員

武藤 芳照、野口 律奈、川村 洋介、櫻井 英一、竹之内 勝、藤原 幸孝

2. 事務局

健康福祉部 スポーツ振興課長 原 拓也

健康福祉部 保健企画課長 中村 志保合

【議 事】

○武藤部会長

それでは定刻よりもやや早いですが、出席予定の方、事務局も全員おそろいのようなので、始めたいと思います。

今日のご都合で阿部委員と濱本委員がご欠席で、濱本委員からは書面で意見をお伝えいただいておりますので、お手元の資料でご確認ください。

本日の主要な議事は社会体育事業に関する予算配分ということになりますが、その前に、レシコンテストの話もありますので、お楽しみいただければと思います。

各委員がお一人 1 回のご発言をいただければ大変ありがたいと思います。

では、配付資料の確認を原課長から説明願います。

○原スポーツ振興課長

本日の配付資料につきましては、まず資料 1、中野区社会体育事業補助金のあり方について、資料 2 はこの補助金の根拠規定となる、スポーツ基本法、中野区社会体育事業補助金交付要綱です。

資料 3 は、中野区社会体育事業補助金交付事業の実施結果で、昨年度の参加人数、結果が載ったものでございます。

資料 4 は、過去 3 年度の実績と、令和 6 年度に交付している精算前の金額を載せております。

そのほかご意見をいただく際に必要かと思いましたので、参考資料 1 として、昨年答申などもいただきまして策定をしました中野区スポーツ・健康づくり推進計画と、私どものほうで中野区基本計画というものをつくってございますけれども、そのスポーツ実施についての部分の抜粋を参考資料 2 としてお配りしているところでございます。

資料につきましては、以上でございます。

○武藤部会長

まず、本日の報告事項を伺います。レシコンテストの結果等について、中村保健企画課長から願います。

○中村保健企画課長

それでは保健企画課より説明させていただきます。令和 6 年度の食育推進事業の主な取組についてご報告いたします。今年度二つの事業を新規に取り組んでいますので、そ

の2点についてご説明をします。

まず、尿中ナトリウム・カリウム比検査による食生活改善アドバイス事業の進捗状況をお伝えします。二つの事業に分けて今年度実施をしています。一つは健康イベントのときに検査をするということで、令和6年8月に実施をいたしました。現在は結果を返しているところでございます。

もう一つは郵送での検査を募集し、まず9月に区のホームページ等で周知、10月に申込者に尿検査のキットやアンケート用紙等を郵送いたしました。申込者の方から尿の検体を郵送で送っていただきまして、今ちょうど締切が終わって集まったところです。これから検査をしていただいて、食生活の改善のアドバイスの内容について、12月以降に個々に通知を発送する予定でございます。

11月1日現在の様子ですけれども、健康イベントでの申込みが全部で129名いらしたのですが、尿の検体を提出された方は121名、実施率が94%と出ていますけれども、イベントの途中で、やり始めたのだけれども時間がなく、アンケートの量が多かったりするので、「もうこれはちょっとやめます」とおっしゃった方が8名ほどいらした状況でした。

郵送での申込みが全部で357名で、郵送申込みは、とても反響があったかなと思っていますけれども、尿の検体を提出いただいた方が289名です。回収したのが81%で、これはひょっとして半分来ないのではないかと心配していたのですが、かなり高い率で皆さん関心を持っていることがうかがえます。

健康イベントでの実施の詳細ですが、8月6日に健康イベントを実施しました。中野区役所の1階のナカノバというところ、講演会で200人ほどが入れる広いところなのですが、そこで実施をいたしました。全体の参加者は230名、半日の実施でしたが、本当に人がたくさん並んでいて、来庁される方もちょっとのぞいて「何？」といった感じで寄ってくださり、とても盛況に終わったかなと思っています。

それぞれブースを設け、最初のところでナトカリ検査を受けていただいて、そのあとは任意なので、お好きなところにとご案内しました。項目は、骨密度検査、それから口腔機能の検査、ヘモグロビンの推測値ですけれども、ヘモグロビンの量を測る検査、握力、酸素飽和度、パルスオキシメーター、血管年齢です。ステージには、ディスプレイにいろいろな健康教育の内容を投影しました。それぞれのブースに立ち寄った人数ですが、やっぱり骨密度はどこに行っても人気で、30分ぐらい待っていただく状況でしたが、皆さん「待つわ」と座ってお待ちになっていたという感じでした。どこもかなりの人数の方が参加されたかなと思います。

アンケートを確認しましたら、50代以上の参加者が多かったかなと思います。30代の方が少しいらっしゃるかなというところで、次年度の課題なのですが、もう少し若い世代の方を狙うために、日にちとかイベントの内容とかも工夫していきたいと考えております。

「何で見ましたか」という設問では区報を見た方がとても多く、通りかかった人とか、チラシ、ホームページの方も多くいらっしゃいました。

「どの測定があなたにとってためになりましたか」の設問では、骨密度測定が一番人気で66%と特に関心があったのかなというような印象を受けております。ナトカリについては36%。やはり耳慣れないので、知らないうちに受けていて、「あっ、これは何だろう」と、「ちょっと面白そう」と思っていたいたかなと思っています。

当日は帝京平成大学の健康メディカル学部健康栄養学科の学生さん3名と副部会長の野口先生にも来ていただきました。また、帝京平成大学の薬学部教員2人と、学生さんも10名ほど来ていただいて、それぞれのブースに2人ずつ配置していただきました。

すごく丁寧に説明してくれていたかなと思います。

会場の奥の大きなディスプレイには、健康情報のDVDを流したのですが、後の反省会で野口先生からもご指摘いただいたのですが、皆さんが待っているときにディスプレイを見るのがなかなか難しい配置だったので、来年度は工夫した配置にしたいと考えています。

大人気だった骨密度測定は、ずらずらと渦を巻いて、列がどんどん増えていくので、都度椅子を持ってきて座ってお待ちいただいたのですが、限られた時間で説明を丁寧にしてお返ししました。

実際のイベントの様子は以上のとおりです。この部会でもご意見いただいていますけれども、若い学生さんに参加していただくというのは、区民にとってもとても活気が出ることだなと思いましたし、学生さんにとっても刺激になって、お互いの相乗効果でも有意義だったかなと感じています。

次にレシピコンテストの結果についてです。投票数が全部で410票。パネル展で、実際に現地で投票していただいた方が169票、WEBでの投票が241票ありました。令和5年度の投票が336票でしたので全体的に上がって、特にWEBでの投票が上がっているかと思っております。

最優秀賞がれんこんハンバーグのきのこあんかけのメニューです。優秀賞が鶏肉のごぼう巻き唐揚げで、実は1票差だったかと思うんですね。本当に接戦で、どちらもとてもいいメニューでした。

これから広報いたしますが、レシピコンテストの限定メニュー販売ということで、区役所1階のカフェでメニューを提供させていただきます。

実は、優秀賞と最優秀賞の二つだけのメニューを提供するというお話になっていたのですが、事業所のご厚意で4品とも全部提供しましょうということで、11月18日から2週間ごとに2品ずつ、それぞれ1日限定20食980円で販売をしていただけます。これからの広報で、たくさんの区民の方にも来ていただければいいなと思っています。

レシピコンテストも実際にメニューの提供という形になり、バランスのよい、とてもおいしそうなメニューに出来上がっていますので、関心を持っていただけるといいなと思います。

前回、武藤部会長から包括基本協定を締結している大学にも声をかけたらというご提案をいただいていたのですが、今年はできませんでしたので、来年度はぜひほかの大学の方にも声をかけてメニューの募集をして、もっと広げていきたいと考えております。ご報告は以上になります。

○武藤部会長

ありがとうございます。それではレシピコンテストの結果、なかなか面白い開催内容になったと思いますが、何か確認したい点、尋ねたい点がありましたらどうぞ。

○櫻井委員

この前もお聞きしたかもしれませんが、健康の測定の結果は、全部そろったら、何かまた引っかかった人とか、悪いデータだった場合は医療機関とかにつなげるのでしたっけ。

○中村保健企画課長

データだけで一喜一憂ということではなく、あくまで参考値で、心配な方はかかりつけの先生にお声がけくださいということを、チラシを配る際にも全てお声かけしています。

○武藤部会長

ほかにはいかがでしょうか。どうぞ。

○野口副部会長

実際に健康イベントにスタッフとして参加して、一番の課題は参加者の年齢が 60 代、70 代、80 代だということでした。例えば骨密度に関しても、80 代の方が、これから骨密度が増えるわけではないですし、気をつけようということに関してはまったく問題ないと思うのですけれども、やはりもう少し若い人たちにやっていただかないと、全体の底上げになっていかない、一番の今後の課題かなというふうには感じました。

全ての項目において、もう少し若い世代が注目しないと、最終的な医療費の削減などには流れていかないと思うので、私も含めてですけれども、そこだけ少し工夫をしていけたらなと考えます。

○武藤部会長

ありがとうございます。どこの自治体もこうしたイベントは大体 60 代、70 代、80 代で、圧倒的に女性が多くて、骨密度測定が人気なのですが、これ超音波ですよ。

○中村保健企画課長

はい、そうです。

○武藤部会長

踵骨の超音波ですので、1 回の計測で骨のもろさとか、骨折のしやすさみたいなことを論ずるのはかなり厳しいですね。ただ、きっかけにするには骨密度計測はよいので。これ保健師さんが対応しているんですね。

○中村保健企画課長

私ともう 1 人の 2 人で対応していました。

○武藤部会長

計測をきっかけにして転倒骨折予防のためのこんなことを注意されたらどうですかや、あなたの転倒しやすさみたいなものを 5 項目とか 10 項目で簡単にチェックできる点数票を待っている間に書いていただいて、それで骨密度計測データと合わせて総合的に転倒骨折予防になるにはこうしたほうがよいので、気をつけてくださいねと説明したほうがいいかと思います。あの数値だけ見て、コンマ 0.01 がどうのこうのって、いちいち説明するのは、すごくやりにくいし、サイエンティフィックではない。全国で保健師さんがものすごく困っていたので、今のお話したような組み立てのほうがいいでしょう。

足の老化度の測定をやったりすることもあります、相当なスペースと人も要るので、そこまでは言いませんが、転倒しやすさのチェックは 10 項目ぐらいでできるので、それを待っている間にチェックしてもらって、それを見ながら保健師さんが指導すると無理はないと思います。

踵骨の骨密度は私たちも 12 年ぐらい東京厚生年金病院でやっていたのですけれども、あれ一つだけで論ずるのはとても難しいです。総合的な評価の一つとして使うのならいいのですけれども、というふうに思いました。

○中村保健企画課長

説明が難しいなと思いながらもたくさんの人をさばきながら、今回はイベントという

ことで、とりあえず計測に焦点を当てて実施しました。1回やってみて、結果を説明するとか、アドバイスをする人を次年度はどうやって配置しようかと思っています。

例えば栄養のこともそうですし、個人的に聞きたいという人も多分いらっしゃるでしょうから、今、先生の結果の、転倒のしやすさなど、ほかのことも含めて、具体的な行動のワンポイントをアドバイス出来たらと思っています。その辺の工夫は必要だと思っています。

それから、野口先生が指摘された若い方をどうやって集めるかというところは、今年度は平日の開催になったのですが、まず1回目を開催というところで、読めないところだったのですが、これだけ人が来るというのが分かりましたので、例えば休日に、四季の森で遊んでいらっしゃる親子をどうにかして中に誘導できないかなど案の段階から今回も検討していましたが、次年度に向けて課題として検討したいと思っています。

○武藤部会長

学生は無報酬なんですね。

○中村保健企画課長

そうです。ボランティアで来ていただいています。

○武藤部会長

交通費も出ないんですね。

○野口副部会長

はい、出ません。

○武藤部会長

お金のことはいいとして、ユニフォームとしてTシャツがあると、参加者の区民がすぐに、「あっ、これスタッフなんだ」とわかりますし、顔見知りでないスタッフ同士で一体感が出ます。「中野区」の表示でもいいのですが、ユニフォームがそろっていたほうが仕事はやりやすくなると思います。

中野サンプラザで学会を行ったときに、サンプラザ前で、我々も同じようなイベントをしましたが、全部ユニフォームをそろえました。

○中村保健企画課長

今回、参加者とスタッフが分かりづらかったので、腕章など、スタッフがわかるような工夫が反省の中にも出ていましたので、検討したいと思います。

○武藤部会長

参加者にとって、それが利便性が高いです。

来週ぐらいまでに多分、来年度の予算取りでしょうから、学生の交通費とユニフォームぐらいは予算担当部署と調整していただいたらどうでしょうか。

○中村保健企画課長

今からでは難しいのですが、ご意見をいただいた、みんなでというものを考えたいなと思います。

○武藤部会長

ほかの委員いかがでしょうか。よろしいですか。こういう企画をして、実施して報告書をつくるのはなかなか難儀な仕事ですが、次年度もぜひお願いします。

では、本日の主要議題であります社会体育事業の補助金の交付について、原スポーツ振興課長から資料1から4、参考資料1から2、併せて説明をいただきます。どうぞ。

○原スポーツ振興課長

それでは中野区社会体育事業補助金のあり方の検討について、資料1からご説明いたします。

法令に基づきまして、自治体がスポーツ団体に対しまして補助金を交付する場合に、こういった審議会のご意見を伺わなければならないと規定されていることから、ご意見を頂戴するものでございます。

区ではこういったスポーツ振興に資する活動に対しまして補助金を交付することで、区民のスポーツ機会や参加意欲の向上を図るとともに、スポーツを支える団体の方々の支援を行っているというところでございます。

今年度につきましては、来年度以降の事業補助のあり方について検討を進めているところでございます。

1の根拠につきましては、資料2に審議会でご意見をいただくこと、中野区のほうで現状この補助金の基準と言いましょうか、根拠になっている中野区社会体育事業補助金交付要綱の主要な部分の抜粋を載せさせていただいております。

続きまして資料3は、令和5年度の中野区社会体育補助金交付事業の参加者、参加チームの数などを載せた資料です。

そして、資料4は、過去3年度分の決算の数字と、今年度、最終的な確定額の前でございすけれども、現在の計画の中で交付といいますか、支払っている金額を記載してございます。

対象事業の概要としては、資料4でご覧いただけているかと思いますが、広く区民を対象とした大会を中心に、それ以外にも広く参加していただけるスポーツ事業についても、補助の対象としているというところです。

また中野区体育協会については、区内のスポーツ振興を目的としていて、その中核を担っていただく加盟団体及び中野区と協働して事業を実施していただく団体であることから、体育協会の事務局としての経費も補助をしているところです。

資料1の4番ですが、当部会や交付対象団体からの意見、要望の要旨をまとめております。上の二つが過去のこの部会で各委員の皆様から、補助金の形とか、こういったものに出したらいいのではないかなというようなご意見です。

二つ目の今後のスポーツ施策はどうあるべきかですが、昨年答申などもいただき、スポーツ健康づくり推進計画を策定したので、区が示した計画に沿って考えるものです。

下の三つは交付対象団体、主に体育協会の方からいただいた意見です。特に下の二つは今年度体育協会からいただいた来年度に向けた予算要望にも記載があった内容となっています。

これらを踏まえ、この補助金を見直していくにあたり、こういったことが必要かということについては、再度ご意見をいただければと考えております。ご説明は以上です。

○武藤部会長

ありがとうございます。これは定例の部会に求められている仕事であります。根拠規定は資料2の冒頭の第35条があって、その下から3行目でしょうか、「スポーツ推進審議会等その他の合議制の機関の意見を聴かなければならない」というのが根拠規定に

なっております。中野区の場合はスポーツ推進審議会がありませんので、この部会が、健康福祉部の下にありますスポーツ振興課が所掌しておりますが、法律でいう合議制の審議会の代替をしているという位置づけであります。

資料3の交付事業の実施結果は、参考にしていただければと思いますが、資料4の過去3年度の決算額は、大方、私が把握する中では大きな変化はない状態で、事業の予算配分が行われています。

それで、ご欠席の濱本委員の書面意見をご覧くださいますと、簡潔に言う「物価上昇なので何とか考えて」ということかなと思います。光熱水費も人件費も大体1.2倍ぐらいに上がっているの、個別の団体が受け取る額がほぼ同じだと相当苦しい状態がこの3年ぐらい続いているということで、来年度ひょっとしたら大会もできないかもしれませんというような訴えが濱本委員の意見でございます。

ここまでの説明に関しまして何か各委員から質問なり、確認したい点がありますでしょうか。どうぞ。

○藤原委員

実際の過去3年分の決算額が、あまり変化がないということなのですけれども、各大会によって大きさというか、種目によって、かかる費用というのはバラバラなわけですよね。それが適正であるかどうかは誰が判断しているのですか。

○原スポーツ振興課長

区の予算の場合、主に実績なども見ながら交付をする形になっていて、当然、経年で補助金以外の部分についてもご報告いただいているところでございます。

そういった中で、それぞれ競技ごとに補助金が出ている割合が違ってきています。また、最終的にこの金額を決めるのは誰かというご質問ですが、スポーツの所管で最終的には判断をしています。

○藤原委員

区役所の職員が決められているということですね。

○原スポーツ振興課長

結果的にはそうなります。

○藤原委員

トップとしては部長クラスぐらい。案をつくって、オーケーになれば区長決済ということになるわけですね。

○原スポーツ振興課長

区役所の決まり上、区長まではいっているわけではないのですけれども。

○藤原委員

それはそうとして、額がほとんど変わらないということは、多分、前年度続行で、「去年このぐらいだったから今年もこうだよね」ということになりがちではないのでしょうか。

○原スポーツ振興課長

ご指摘のような部分もあるかと思いますが、これまでと少し考え方を変えて、どう

いった交付の仕方が適正かということを今、私どもで検討をしているところです。

○藤原委員

各協会が今年幾ら使いましたよということに対して、それが適正であったかどうか、監査みたいなことはやるんですか。

○原スポーツ振興課長

私どもで確認もしますし、補助金事業なので区の監査もありますので、それは一旦通っています。

○藤原委員

であれば、まあいいんでしょうけれども。

○武藤部会長

例えば、資料４で、中野区の体育協会の大会名等にある組織団体に配分されているのですが、各大会は例えば 100% 予算執行するとして、ここにある補助金はそのうちの多分数%とか、場合によると数十%のところがあるかもしれませんが、その 100 を使い切ったところで、各大会の決算報告は中野区体育協会にいくと思います。それで中野区体育協会の会計監査の業務として、多分そこでチェック機構が働いていると思います。ここに出ている予算と決算は、区が補助した一部だけ。

○藤原委員

区が補助した部分だけなのですね。

○武藤部会長

そうです。したがって、毎年一緒というのは、区が、これ以上出せない、マックスこのぐらいしか無理ですよということを言い続けているのだと思います。

ですから、さきほどの濱本委員の意見にあったように物価高騰の折だから、もう少し出してくたらないのではないかと言いたいところですが、パイが決まっているので、これ以上のことは多分、この部会ではコントロールできない状態になっていると思います。

○藤原委員

本会の予算をもうちょっと考えましょうと。

○武藤部会長

ですから、区議会で、こういうスポーツ振興をやるのだったら、区民のためのスポーツの普及について、もう少し幅をとらせたらどうかということをお決めいただかないと駄目かなと思います。

○藤原委員

分かりました。

○原スポーツ振興課長

今、部会長から補足していただいたところは、まずは資料２の裏面の一番最後のところ、「補助金の交付額は最終的には予算の範囲内で交付する」ということになり、最終的には幾らかかっていたとしても、予算の範囲内というような形になります。

一方で今年度は、何とか見直しということをおどもも考えているところですので、その見直しの結果、金額がどうなるのかは、まだ固まっていない状況です。

○武藤部会長

郵便のはがきも封筒も上がっていて、相当痛いすよね。これは大会を主催する側としては相当厳しい状況は続いていて、でも区のパイは決まっているので、これ以上出せないけれども何とか頑張ってやってください。ただし、濱本委員が、体育協会の専務理事としてはこのままでは大会もできなくなってしまうということを訴えていらしたということだと理解しています。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では特段ご異議はないという理解でよろしいでしょうか。この決算も含めての報告と今後の配分の方針は、今からしかるべき措置を講じながら、改善に向かって原課長のほうで工夫をしていただくということで、事前の打合せでも明言をいただきましたので、しっかり検討していただければと思います。

区民のスポーツの普及振興、健康増進はきわめて重要ですし、生きがいのためにも、中高年にとっても重要な意味があります。

○武藤部会長

それでは今日の主要議題は以上ですが、各委員から情報提供なり、この際なので、こうしたことをご紹介したいとかいうことがありましたら。どうぞ、竹之内委員。

○竹之内委員

学校体育となると部活動、スポーツ振興というものが非常に大切になってくるわけですが、いよいよ来年度7年度をもって、スポーツ庁、文科省ですけれども、地域移行推進期間を終えるということになります。推進期間の中で何を推進してきているのか、今まで公的には言われていませんが、当然成果検証されるわけです。8年度以降は実行期間に入っていくので、やはりそれなりにこの会の果たす役割も大きくなっていくのかなというところで、様々なご提言等いただけると、うれしいなと思っています。

もちろん根拠となるものが必要なので、中野区教育委員会の指導室とも連携を図って、子どものアンケート、保護者のアンケート、教員のアンケートをもとに作る中で、今年度はダンスを、子どもの意見の一番多かったものを、行政主導型の部活動ということで進めているところです。来年度以降についても、今進めている段階ではありますが、今度は、働き方改革の教員側のニーズを捉えてやっていこうというところで、次は陸上競技を考えています。具体的には陸上競技大会に中野区の国立、都立、公立、区立、私立、全ての学校から、約14から15団体出ているのですが、新国立競技場を使ってやらせていただいている。ところが残念ながら陸上部として、教員がやれているのは緑野中と南中野中しかない。私立、都立は教員がいるのですが、そういう状況がありますので、学習指導要領にない砲丸投げなどの指導について非常に困っているところがあります。

同時に、どこで練習をするか、どのように集めるのかという課題もあります。当然学校のグラウンドを使えばいいわけなのですが、指導室も非常によく考えてくれているので、何らかの形で後押ししてもらえそうな形になっていけるといいなと思っています。

さらには各学校部活動指導員の増員については当然予算がかかりますので、その予算の関係、さらには質の向上など、選定の際の確認事項も含めた研修施設であるとか、あるいは資格化していくであるとか、そういったことも含めて、今後考えていかなければいけないかと思っていますので、最後に一言、情報提供のような形で発言させていた

できました。よろしくお願いいたします。

○武藤部会長

ありがとうございました。これも全国どこの学校も、あるいは自治体も困っている、悩んでいる。「地域移行」と当初は言っていたのですが、やっぱり「地域連携」という言葉も入れないと現実的ではないということで、連携を進めながら児童生徒等のために、中学、高校主体ですから生徒等のために、みんな、地域全体で働きかけていこうという動きになりつつあるように理解しています。

ちょうど竹之内校長のいらっしゃる中野中学校が都の体育健康教育研究指定校ということになりましたので、区にとっても誇らしいことだと思いますので、東京都内の中学の先進的な取組として進めていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○藤原委員

興味本位な質問なのですが、中野区大会の中でクレ射撃やライフル射撃がありましたが、他区や都内で実施しているところがありますか。

○原スポーツ振興課長

今、詳細は確認できませんが、存在しています。

○藤原委員

珍しいわけではない。

○原スポーツ振興課長

実施してないところもありますが、中野区内ではできないので、区外に行って、大会を開くと伺っています。

○武藤部会長

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

○原スポーツ振興課長

机上にチラシを配らせていただきました。もう 11 月なので、あと 1 年ですが、聞こえない、聞こえにくいアスリートのための国際スポーツ大会の 2025 デフリンピックが開催されます。

裏面をご覧くださいますと、このデフリンピックは日本では初開催で、第 1 回から 100 周年を迎え、第 100 回大会東京となりまして、パラリンピックよりも歴史が古いと聞いています。

下の地図をご覧くださいと、中野区立総合体育館でテコンドーの正式競技が行われます。我々もこういった障害者スポーツですとか、ユニバーサルスポーツの振興の契機にしていきたいというふうに考えています。

また、中野区主催ではありませんが、東京都や東京都の事業団などが主催ということもあり、区民の皆様、学校に通われているお子様方を招待するなどという企画も進んでいると聞いています。

今、区で関わっている団体や施設にどれぐらい配ろうかと庁内で確認をしておりますので、それぞれの団体から来ていただいている委員の皆様にも、届くことがあるかと思っています。なかなかまだ知られていないということもありますので、ご周知のご協力のほ

ど、どうぞよろしくお願いいたします。

○武藤部会長

ありがとうございます。「デフネス」が「難聴」という意味で、オリンピックと合わせてデフリンピックというふうに言っております。

例えば陸上のスタートでも号砲一発は聞こえないので、水泳のスタートと同じですが、目で見えてスタートを確認して、走ったり泳いだりする。通常のオリンピックとは、また違った光景と、それから人間というのは大したもの、一つの能力が生まれつき発揮できない方はほかの能力で、全体として 100% ぐらいになるという、すごい適応能力があります。そういう意味では一つの障害がある方が、ほかで、ものすごい才能を持っている方も多々いらっしゃるの、そういう意味でも子どもの教育上からも、非常に重要な障害者のスポーツ大会ではないかと思えます。

では来年、ちょうど 1 年後ですね。デフリンピックがありますので、ご紹介でした。それでは本日はこれで終了いたします。今日はありがとうございました。